

## ■ 本文

いづれの御時〔①〕にか、女御・更衣あまたさぶらひ〔②〕たまひ〔③〕ける中に、いとやむごとなき〔④〕際にはあらぬが、すぐれて時めき〔⑤〕たまふありけり。はじめより我はと思ひ上がりたまへる御方々、めざましきものにおとしめそねみたまふ〔⑥〕。同じほど、それより下臈の更衣たちは、ましてやすからず。朝夕の宮仕へにつけても、人の心をのみ動かし、恨みを負ふ積もりにやありけむ、いと篤しくなりゆき、もの心細げに里がちなるを、いよいよ飽かずあはれなるものに思ほして〔⑦〕、人のそしりをもえ憚らせたまはず、世のためしにもなりぬべき御もてなしなり。

## ■ 設問（全24問）

1. 本文冒頭「いづれの御時にか」を、文末を補って現代語訳せよ（「か」のあとに省略されている言葉も考えること）。
2. 傍線部①「御時」の読みをひらがな（現代かなづかい）で書き、意味も答えよ。
3. 傍線部②「さぶらひ」は敬語の種類（尊敬・謙譲・丁寧）を答え、誰から誰への敬意を表すかを答えよ。
4. 傍線部③「たまひ」は敬語の種類を答え、誰から誰への敬意を表すかを答えよ。
5. 「いとやむごとなき際にはあらぬが」の「ぬ」は、何の助動詞のどの活用形か答えよ。
6. 傍線部④「やむごとなき」の意味を答えよ。
7. 傍線部④をふまえ、桐壺更衣はどのような身分（家柄）の女性であったか、本文に即して説明せよ。
8. 「すぐれて時めきたまふありけり」の「けり」、および「恨みを負ふ積もりにやありけむ」の「けむ」は、それぞれ何の助動詞か（意味・用法）を答えよ。
9. 傍線部⑤「時めき」の意味を答えよ。
10. 傍線部⑤について、ずばぬけて帝の寵愛を受けたのは誰か。また、その寵愛を「すぐれて時めき」と強調することで、更衣のどのような点が際立つように書かれているか、身分とあわせて説明せよ。
11. 傍線部⑥「めざましきものにおとしめそねみたまふ」を現代語訳せよ。
12. 傍線部⑥「おとしめそねみたまふ」の「たまふ」は誰から誰への敬意を表すか、種類もあわせて答えよ。
13. 傍線部⑥「めざましき」（めざまし）の、ここでの意味を答えよ。
14. 「いと篤しくなりゆき」の「篤し（あつし）」の意味を答えよ。
15. 「もの心細げに里がちなる」を現代語訳せよ。
16. 桐壺更衣が「もの心細げに里がち」になっていったのはなぜか。また、それに対して帝の気持ちはどう変化したか、本文に即して説明せよ。
17. 傍線部⑦「いよいよ飽かずあはれなるものに思ほして」を現代語訳せよ。

18. 「人のそしりをもえ憚らせたまはず」を現代語訳せよ。
19. 「人のそしりをもえ憚らせたまはず」の「せたまは」は、敬語の種類として何と呼ばれる言い方か。また、それは誰への敬意を表すか答えよ。
20. 「世のためしにもなりぬべき」の「ぬ」「べき」は、それぞれ何の助動詞のどの活用形か答え、あわせて口語訳せよ。
21. 「思ほし(て)」(思ほす)は「思ふ」をどう言いかえた語か。敬語の種類と、誰から誰への敬意かを答えよ。
22. 桐壺更衣が周囲の女御・更衣たちから嫉妬され、見下された理由を、本文の内容にそって説明せよ。また、嫉妬したのは具体的にどのような人々か、本文中の語句を用いて答えよ。
23. 【文学史】『源氏物語』について、(A) 作者名、(B) 成立したおおよその時代(時代区分)、(C) 全部で何帖から成る長編物語か、の三点を答えよ。
24. 【文学史】『源氏物語』は、伝説や空想をもとにつくられた物語の系譜に連なる作品である。このような種類の物語を何というか。また、その系譜で「現存する日本最古の物語(物語の祖)」とされる作品名を一つ答えよ。